



高島市 オリーブ栽培の手引き



令和2年10月 高島市農業政策課

【オリーブとは】

モクセイ科オリーブ属に分類される常緑高木です。自家不和合性が高く、1600を超える品種が確認されています。非常に長寿な木としても知られており、世界には樹齢2000年を超えるものも少なくありません。それに加え、「平和」「知恵」「勝利」という花言葉を持つことから、シンボルツリーとしても人気があります。



山田オリーブ園(小豆島)

【栽培に適した気象条件】

オリーブは温暖少雨の気候に適し、過湿を嫌います。過湿状態が続くと根腐れを起こしてしまうため、十分な排水を心がけてください。また、冬の低温については、 -5°C 以下が長期間続かなければ、枯れることはありません。

気象条件	最適地	今津	小豆島	他産地の例
年間日照時間 (h)	2,000h以上	1,746.4	2,138.8	1556.3
年間降水量 (mm)	1,000 mm程度	1,630.5	844.5	1412.0
年平均気温 ($^{\circ}\text{C}$)	14~16 $^{\circ}\text{C}$	14.9	16.9	15.4
1月の平均気温 ($^{\circ}\text{C}$)	10 $^{\circ}\text{C}$ 以下	3.2	6.8	4.7

(気象庁ホームページより2019年データ)

【ほ場の選定】

- 日当たりが良好
 - 日照時間は生育、収穫量に大きく影響します。
- 水はけが良い
 - 過湿を嫌うため、重粘土や地下水位の高い低湿地などは避けてください。
- 十分な保水力と保肥力に富んだ肥沃地
 - 植えつけ前に苦土石灰で酸度を調整し、完熟堆肥などで土壌改良を行います。

【品種】

「品種にまさる技術なし」と言われます。高島市では、国内の産地である小豆島で多く栽培されている4品種（ミッション、マンザニロ、ルッカ、ネバディロ・ブランコ）のほか、近年、収穫実績のある2品種（アルベキーナ、レッチーノ）を勧めています。利用方法や品種の特性など熟考し、選択してください。

品種名	用途	樹勢	樹形	果実サイズ	含油率	炭疽病	原（主要）産地
ミッション	兼用	強	直立性	中	中	弱	アメリカ
マンザニロ	漬け物	弱	開張性	中	低	中	スペイン
ルッカ	オイル	強	直立性	小	高	強	アメリカほか
ネバディロ・ブランコ	オイル	中	開張性	中	中	中	スペイン
アルベキーナ	オイル	弱	開張性	極小	中	強	スペイン
レッチーノ	オイル	強	開張性	中	中	強	イタリア

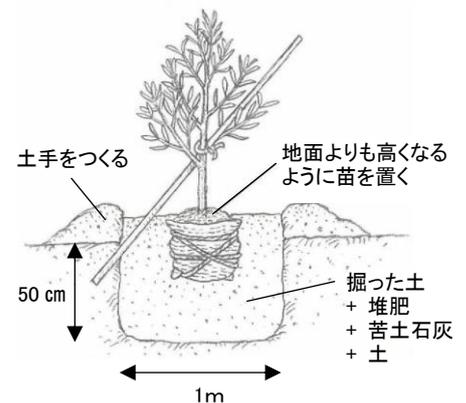
【結実】

単一品種では結実しにくい性質（自家不和合性）があるので、異なる品種を受粉樹として1~2割混植しましょう。1品種だけでも結実すると説明されている品種であっても、結実量に顕著な差がみられることから、2品種以上を植えてください。ただし、受粉樹にも相性があり、組み合わせによっては結実しにくい場合があります。ネバディロ・ブランコは、幅広い品種と相性が良いとされています。

【植えつけと管理】

植えつけ時期は、3~5月が最適です。植えつけ後の生育を良くするために、植え穴を深く耕し、耕した土に苦土石灰・完熟堆肥等を混ぜて埋め戻します。オリーブは、根が浅く倒伏しやすいので、植えつけ時には支柱を立てて固定します。植えつけ後は、たっぷりと水やりをしてください。十分な日照時間を確保するため、5m以上の間隔を設けて植えつける必要があります。年月が経過すると土が固くなり、またpHが酸性に傾きます。土の通気性や排水性を良くするため、木の周辺を軽く耕し、苦土石灰と完熟堆肥を施用します。

植えつけイメージ



図：角 慎作（これならできるオリーブ栽培より）

【施肥】

オリーブは土壤環境への適応力が高く、土の栄養分が少なくても簡単に枯れてしまうことはありませんが、充実したオリーブを収穫するためには肥料不足にならないよう注意してください。施肥は下表を参考に行ってください。また、オリーブは根が浅く広がりやすいので、施肥は根本ではなく、樹の周りに広く行いましょう。

樹齢 時期	未結実期 植えつけ後 1~3 年	結実初期 植えつけ後 4~9 年	成木 植えつけ後 10 年以上
	窒素：リン酸：カリ	窒素：リン酸：カリ	窒素：リン酸：カリ
春肥（3月中旬）	2.5kg：1.5kg：2kg	5kg：3kg：4.5kg	8kg：5kg：7kg
夏肥（6月下旬）	1kg：1kg：1kg	2.5kg：2kg：2.5kg	4kg：3kg：4kg
秋肥（10月下旬）	1kg：1kg：1kg	2.5kg：2kg：2.5kg	4kg：3kg：4kg
苦土石灰（2月頃）	1kg/本	1.5kg/本	2kg/本

注：①10aあたりの施肥量の目安 ②前年の生育状況に合わせて調整する ③苦土石灰は、年間通して施用可能

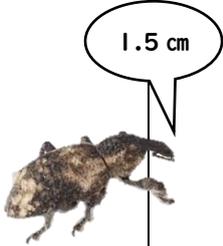
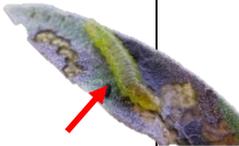
【病害虫防除】

果実を食用とするため、できるだけ薬剤を使わず、日頃からよく観察し、症状がみられたときは、病害虫の生息密度を少なくする耕種的防除によって速やかに対応してください。

注：①耕種的防除とは、病害虫に好適な環境条件を排除することにより、その発生を抑制する技術

②ここに記載する農薬は令和2年10月12日現在の登録内容です

③農薬の使用にあたってはラベルをよく読み、適正使用基準を必ず守り、防除日誌を記帳しましょう

病害虫名	発生時期	症状	対処法								
オリーブアナキソウムシ	4 ~ 11月	<p>成虫は体長 1.5cm 程度の黒褐色です。成虫が樹皮に卵を産み付け、ふ化した幼虫が幹内部を食害します。株元にオガクズ状の木くずを発見したら、食害されているサインです。</p>  	<p>【耕種的防除の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・株元は、草を生やさないう管理します。 ・成虫を発見したら、速やかに捕殺します。 ・木くずが落ちている近辺の樹皮と幹の柔らかい部分を、マイナドライバー等で削り、中の幼虫を捕殺します。1匹いると数匹いる可能性があります。 <p>【化学的(薬剤)防除の例】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>スミチオン乳剤</th> <th>倍率</th> <th>使用回数</th> <th>収穫前日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>50倍</td> <td>3回</td> <td>21日前</td> </tr> </tbody> </table> <p>※樹幹散布を行います。その際、果実や葉につかないようにしてください。</p>	スミチオン乳剤	倍率	使用回数	収穫前日数		50倍	3回	21日前
スミチオン乳剤	倍率	使用回数	収穫前日数								
	50倍	3回	21日前								
炭疽病	7 ~ 11月	<p>葉や枝、果実に発生する病気です。感染すると、黒や褐色の病斑が確認され、同心円状に広がっていきます。</p> 	<p>【耕種的防除の例】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・適切な剪定を行い、風通しを良くします。 ・病気になった枝葉や実は早めに取り除きます。 ・肥料の窒素分を控え、水はけを良くします。 <p>【化学的(薬剤)防除の例】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>ベンコゼブ水和剤</th> <th>倍率</th> <th>使用回数</th> <th>収穫前日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>600倍</td> <td>2回</td> <td>90日前</td> </tr> </tbody> </table>	ベンコゼブ水和剤	倍率	使用回数	収穫前日数		600倍	2回	90日前
ベンコゼブ水和剤	倍率	使用回数	収穫前日数								
	600倍	2回	90日前								
ハマキムシ類	4 ~ 11月	<p>丸まった葉や白い綿状のもので何枚かつづられた葉、穴があいた実を見つけたら、食害のサイン。多発時には果実にも被害を及ぼします。</p>  	<p>【耕種的防除の例】</p> <p>食害された枝先ごと除去します。</p>  <p>【化学的(薬剤)防除の例】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>デルフィン顆粒水和剤</th> <th>倍率</th> <th>使用回数</th> <th>収穫前日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>50倍</td> <td>—</td> <td>前日</td> </tr> </tbody> </table> <p>※生物農薬です。</p>	デルフィン顆粒水和剤	倍率	使用回数	収穫前日数		50倍	—	前日
デルフィン顆粒水和剤	倍率	使用回数	収穫前日数								
	50倍	—	前日								
梢枯病	5 ~ 10月	<p>枝先が茶色く変色し、次第に枝全体の葉が落ちる病気です。梅雨の時期に多発する可能性が高いです。</p> 	<p>【耕種的防除の例】</p> <p>剪定により、風通しと日当たりを良くします。</p> <p>【化学的(薬剤)防除の例】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>トップジンM水和剤</th> <th>倍率</th> <th>使用回数</th> <th>収穫前日数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>1000倍</td> <td>2回</td> <td>30日前</td> </tr> </tbody> </table>	トップジンM水和剤	倍率	使用回数	収穫前日数		1000倍	2回	30日前
トップジンM水和剤	倍率	使用回数	収穫前日数								
	1000倍	2回	30日前								

【獣害】

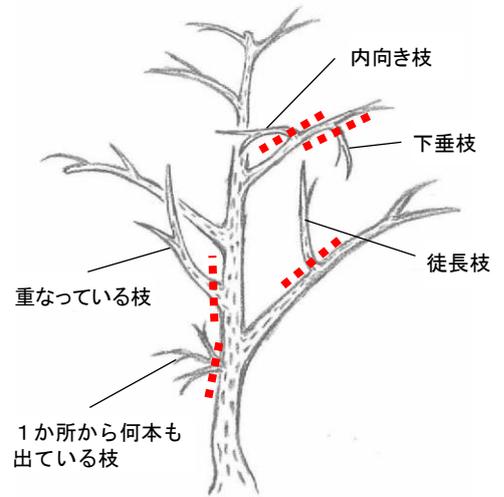
比較的獣害には強いですが、ないわけではありません。イノシシによる掘り起こし、シカによる樹皮の食害などで枯れる場合もあるため、幼木時は注意が必要です。

【収穫】

塩漬け用オリーブ（マンザニロやミッションなど）は、濃緑色の果実が黄化を始めたころに収穫します。赤紫色に成熟した果実も熟果塩漬用に加工できます。油用果実（ミッションやルッカ等）は、緑果または熟果いずれも利用可能です。収穫は手摘みで行います。

【整枝・剪定】

樹高 3m の開心自然形を目指して整枝・剪定を行います。植えつけから 3 年目程度までは整枝・剪定は控え、枝がひどく混み合う場合のみ行ってください。主に、新芽が生長をはじめ前の 3 月頃に行います。それ以外の時期に行ってもかまいませんが、真夏は避けてください。幹や向こう側が見えないほど枝が混み合っている場合は、病気や日照不足のほか、倒伏や作業効率低下の原因になります。また、オリーブは垂れた枝に実をつける傾向があり、上に伸びる枝をしっかりと剪定することが収穫量の安定に繋がります。



剪定すべき枝の例

《剪定すべき枝》

枯れ枝／内向き枝／幹や太枝から真上に向かって伸びる枝／根元から伸びる枝／重なり合いこすれている枝／下垂枝／1か所から何本も出ている枝／平行に伸びる枝 など

【作業カレンダー】

月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		
主な作業	← 植えつけ・植え替え →					← 植えつけ →								
	← 整枝・整形剪定 →													
	← 春肥 →									← 夏肥 →			← 秋肥 →	
	← 苦土石灰（※不足があれば、年中追加可能） →													
										← 果実収穫期 →				

【参考図書】

- ・これならできるオリーブ栽培／山田典章（農文協）
- ・オリーブ栽培・利用加工／柴田英明（創森社）
- ・オリーブ 趣味の園芸 12 か月栽培ナビ／岡路路子（NHK） など



枝にいる オリーブアナアキゾウムシ